

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和3年12月15日

公表:令和4年2月1日

事業所名 放課後等デイサービスボカラボット

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	15		・基準に適合している。	・適切な状態を保持する。
	2	職員の配置数は適切である	15		・配置基準より+αの体制を取っている。	・安全が確保できる体制が維持できるようにする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	14	1	・庭への動線、トイレの手すりなど不十分と感じる。	・修繕などで対応可能な箇所については順次改善していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15		・エラーや不具合に対する業務改善の取り組みが中心となっており、まっすぐに進んでいる。	・日々のエラーへの対応とともに施設の目標やスタッフの負担軽減など考慮した業務改善を進めていくために全スタッフ参加のミーティングを設定する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15		・毎年保護者向けアンケートを実施し集計・分析を改善を行っている。	・評価表の分析の担当者を設定し、具体的な改善案を検討していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15		・HP、ワムネットで公開している。	・結果は公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	10	・外部評価は行われていない。	・外部評価は受けていないが、資格を持つGMの助言を受け業務改善に努める。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15		・コロナ禍で全体で行うのは難しかった。施設内の研修等は実施している。	・オンラインや外部研修の参加を検討し、施設内での研修も行なっていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	15		・サービス等計画書、年に2回の面談、日々の記録、保護者から頂く検査結果をもとに会議を行い、計画を作成している。	・保護者、スタッフ共に情報や計画の方向性を共有し、サービス計画の作成に努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	4	・社会生活能力検査やVineland-IIを備えている。	・社会生活能力検査やVinelandを用いて把握に努めている。また保護者にも積極的に勧めよう。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	15		・季節や天候、ブームなどを考慮しチームで立案している。	・活動案をストックしつつ、常に新しいものをアップデートできるようにミーティングで行なっていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	15		・毎日違う種類の様々な活動を行っていて子どもたちも飽きがなく楽しそう。	・固定化しないように努めている。また子どもたちの安全に配慮し柔軟に対応できるように努める。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	15		・個別規定を作成し課題の共有、支援につなげている。	・下校後のサービス提供は日常的な課題を中心に設定し、支援に取り組んでいる。休日は、じっくりと取り組めるような製作や外出活動、社会体験活動を設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	15		・面談や、日々の記録などを取り、サービス計画を作成している。	・個別の活動や集団活動での要望や課題を的確に吸い上げ、子どもの成長に合わせてサービス計画の作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15		・一日の流れや児童の状態が知れるので活動が活発になる。 ・アルバイトも含め毎日行なっている。	・サービス前の打ち合わせは全出勤者が支援を含め把握できるように精度を上げていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15		・児発管を中心に療育全般、個別の特記事項について共有している。	・その日の活動の良かった点、反省すべき点の確認作業を行い、ヒヤリハット作成、記録を行い共有、次回につなげていけるようにする。 ・終業後は社員のみになる事もあるので次の日のサービス前に情報共有を行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15		・記録は日々付けているが、質については今後の課題。	・記録の精度を上げていくためにどのような書き方が記録として有効性であるのか、計画に活かされるのかを研修を行う。すべてのスタッフの目線で記録を取れるようにしていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	15		・決められた手順に乗っ取り行なっている。	・今後も継続して行っていく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	14	1	・基本活動を踏まえ施設のカラー出せるように工夫している。	・ガイドラインの総則の確認を徹底する。 ・自施設の強みを打ち出しているように基本活動と組み合わせ支援をしていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15		・施設内で適任者を検討し参加している。	・今後も継続して行っていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	15		・保護者からの情報提供 必要に応じて学校と連絡をとっている。	・学校側がHPなどで公開している情報の確保、学校や保護者との連絡調整については直近にならうように留意して行なっていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	9	・対象児がいない。	・対象児は現時点ではないが、受け入れが必要な時のためのコミュニケーションなどをしっかり行なっていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	10	・引継ぎや情報共有の機会がない。	・機会があれば関係機関に意見を出し働きかけていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	10	・口頭のみで終わっている。	・移行児に対しての支援指導など支援の総括をスタッフでまとめて統一引継ぎの方法を決めておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	2	・受講している。	・各研修については広く周知して出席に努め、復命研修の仕組みを整え共有していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	9	・コロナ禍で機会は減っているが公園など外出先では交流がある。 ・社会状況になり実現が難しい。 ・日常的に地域の公園等に出かけ一般児童と自然な交流を持っている。	・積極的な交流の機会が少ないが、社会情勢等を踏まえ「地域社会との共生」の観点は意識していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	15		・管理者、または適任者が出席している。	・今後も継続して行っていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15		・日々の送迎、面談、連絡等のやり取りで共通理解を深めている。	・今後も継続して行っていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	11	4	・必要に応じてペアレント・トレーニングの知見を活かし相談援助を行っている。	・ペアレント・トレーニングという形は取っていないが、日々保護者とのコミュニケーションや相談などは引き続き丁寧に行なっていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	15		・契約時にしっかりと時間を設け丁寧な説明に心掛けている。	・見学・契約時の丁寧な説明や疑問点に関しては出来るだけその場で対応していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15		・LINE、電話、面談により、悩みの相談に対応している。	・今後も継続して行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		15	・コロナ禍により開催できず。	・施設内サロン等の計画はあったが、社会情勢もあり実現できていない。 ・コロナ禍でも対応可能な方法を模索する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	15		・苦情解決制度を整備している。	・適正に運営が出来るように定期的に制度を点検していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	1	・LINEやオンラインのシステムを使い連絡体制の情報網を整えている。	・日々の送迎時や写真の送付、オンラインシステムの活用など活動の様子は丁寧な発信を継続して行う。
	35	個人情報に十分注意している	15			・定期的に取り扱いについては周知・共有を行い徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15			・施設と家庭等で対応の統一等して情報伝達の配慮を行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	11	・コロナ禍により開催できず。	・計画はあったが、社会情勢もあり実現できていない。 ・コロナ禍でも対応可能な方法を模索する。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	15		・整備している。	・各マニュアルをファイリングスタッフが常に確認できるようにし、内容の更新があれば保護者、スタッフ周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14	1	・法定通り訓練を行っている。	・日々の活動で取り入れ、活動実績に対し振り返り・情報の共有をしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	2	・今年度は3月に計画している。	・外部の研修に順次参加を促し、職員間でも復命研修を行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	13	2	・身体拘束は行ない方針。	・身体拘束に対しての理解を深め、スタッフが共通理解を持っておく。不調時の対応にて落ち着ける場所の設定などスタッフ間でも十分に検討・確認を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	5	・注意事項の確認を行っている。	・医師の指示書での対応ではないが、保護者に密に状態を確認し、必要であれば指示書の発行などをして安全を確保する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15		・日々の打ち合わせて共有されている。	・改善点も含め共有していく。 ・事例の収集は出来ているが、分析、対策に時間をかけ改善に努める。